依存症対策地域支援事業

「受診後の患者支援事業」
「地域連携による依存症早期発見、早期対応、
継続支援モデル事業」

R4年度実施状況

受診後の患者支援事業実施自治体（R4年度）

NO	自治体名	実施機関
1	宮城県	医療法人東北会　東北会病院
2	神奈川県	地方独立行政法人神奈川県立病院機構　神奈川県立精神医療センター
3	長野県	地方独立行政法人長野県立病院機構　長野県立こころの医療センター駒ヶ根
4	岐阜県	医療法人杏野会　各務原病院
5	静岡県	医療法人十全会　聖明病院
6	静岡県	医療法人進正会　服部病院
7	愛知県	医療法人成精会　刈谷病院
8	三重県	三重県立こころの医療センター
9	三重県	独立行政法人国立病院機構　榊原病院

東北会病院

（アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル依存症の専門医療機関及び治療拠点機関）

事業の基本情報

１．事業期間

令和４年４月～令和５年３月

２．支援対象者

アルコール依存症
薬物依存症　　　　　　　　　　入院及び外来患者
ギャンブル等依存症

３．専門職員の職種と主な業務

専門職員の職種：精神保健福祉士、社会福祉士、公認心理師、ソーシャルワーカー

主な業務
- 患者、家族の個別相談業務
- 治療、回復のための患者及び家族へのプログラムの実施
- 自助グループ等の民間団体との連携および支援
- 地域医療機関および市区町村、保健所を含む関係支援機関との連携
- 地域医療機関および市区町村、保健所を含む関係支援機関職員を対象とした依存症に関する人材育成
- 地域医療機関および市区町村、保健所を含む関係支援機関への指導、助言

支援の内容

４．連携している民間支援団体

A.A東北セントラルオフィス、特定非営利活動法人宮城県断酒会、
特定非営利活動法人仙台ダルク・グループ、仙台アディクション問題を考える会、
ＧＡ（ギャンブラーズ・アノニマス）、GA（ギャンブラーズ・アノニマス）、
NA(ナルコティクス・アノニマス）、OA（オーバーイーターズ・アノニマス)、
ACODA(機能不全家族で育った成人のアノニマス・グループ）、
LA（ラブ・アディクツ・アノニマス）、
KA（窃盗症：クレプトマニアクス・アノニマス）、
EA（感情・情緒的な問題：イモーションズ・アノニマス）、
ギャマノン（ギャンブル依存症の家族自助グループ）、CoDA（共依存：コーダ）

５．民間支援団体との連携内容

- 院内で民間支援団体の支援員を招いてミーティングを開催
- 民間支援団体主催のイベントや啓発事業開催協力
- 民間支援団体主催のイベントや啓発事業への講師派遣
- 民間支援団体間の連携促進

６．継続的な支援の手法や内容

- アルコール依存症デイケア通所者を対象とした電話等での状況確認
- 入院中の依存症患者に院内自助グループ参加プログラムの実施および市内の自助グループ参加を奨励

地方独立行政法人神奈川県立病院機構　神奈川県立精神医療センター

（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症　治療拠点機関）

事業の基本情報

1．事業期間

平成４年4月～令和５年3月

2．支援対象者

アルコール依存症
薬物依存症
ギャンブル依存症
｝入院・外来の方

3．専門職員の職種と主な業務

精神保健福祉士　看護師

《業務》初診のインテーク面接時または入院時に面接をし、本事業の説明と県内の依存症関連施設・自助Gの資料で情報提供を行う。施設等への同行支援。各種相談支援、本人・家族を対象としたグループワーク実施。

4．連携している民間支援団体

断酒会　AA　NA　GA　EA
横浜ダルク　川崎ダルク　相模原ダルク
湘南ダルク
横浜マック　川崎マック　インダー
寿アルク　BB　たんぽぽ　ケーギャップ
RDP横浜　ヌジュミ　ブルースター横浜　等

支援の内容

5．民間支援団体との連携内容

・毎週火曜日(外来70回)の薬物プログラム「SMARPP(せりがや覚せい剤依存再発防止プログラム)」に横浜DARC、毎週水曜日の病棟プログラム「SMARPP」に川崎DARCのスタッフの参加を依頼した。
・「PSW講座」：1/月実施する社会資源等の紹介のプログラムに、連携している施設を招いて施設の説明を行う。
・毎週土曜日に病棟患者に、NA、AA、断酒会らのメンバーが来院し、「メッセージ」として自助グループの説明を行った。
・神奈川依存症ポータルサイトを運営し、回復施設や各種イベントの情報を発信した。
・家族会が地域で行われている現状から、地域資源につなげるための普及啓発、心理教育等に焦点をあてた家族セミナーを開催する。

6．継続的な支援の手法や内容

入院中に自助グループや回復施設への情報提供を行い、継続的な通所や必要時、同行して支援する。また、多職種チームで受診継続や自助グループや施設への通所状況を共有し、随時支援できるよう連携している。
治療プログラム
SARPP(せりがやアルコール依存再発防止プログラム)
GRIP(ギャンブル等依存症再発防止介入プログラム)

7．その他

・SCOP(感情に焦点をあてたグループ療法)
・神奈川県の依存症治療拠点機関等連携会議を運営している。

地方独立行政法人長野県立病院機構　長野県立こころの医療センター駒ヶ根
（アルコール健康障害、薬物依存症及びギャンブル等依存症、専門医療機関及び治療拠点機関）

事業の基本情報

１．事業期間

令和４年４月～令和５年３月

２．支援対象者

アルコール健康障害・薬物依存症・ギャンブル等依存症の入院・外来の方及びその家族

３．専門職員の職種と主な業務

職種：精神保健福祉士
業務：依存症患者に係る支援相談、入院患者の退院支援、民間支援団体等の連携調整、当院未受診者家族へ依存症で悩む家族のためのプログラム（CRAFT）の実施、オンラインミーティングの案内と共同参加

４．連携している民間支援団体

長野ダルク
名古屋マック
AA、断酒会、GA、ギャマノン

支援の内容

５．民間支援団体との連携内容

・近隣自助グループへの入院患者の参加（週１回）
・院内でAAや回復者クラブ石楠花会メンバーを招いてのメッセージ活動（各月１回）
・リモートで名古屋マック、長野ダルクによるメッセージ活動（各月１回）
・断酒会例会への職員の参加（随時）
・総合病院で行われている断酒ミーティングへの職員の参加（年２回）
・アルコール、薬物依存オンラインミーティングに入院患者と参加（随時）
・各マック、ダルクへの入所相談（随時）
・ZOOM出前例会をプログラムに導入（月２回）
・当院主催研修会でNA、薬物依存家族会、GA、ギャマノンメンバーによる講演（年１回）

６．継続的な支援の手法や内容

・通院時に外来ミーティングに出席してもらい状況を共有（コロナ流行期はオンラインに切り替え）。必要であれば自助グループの情報を伝え、断酒会の会長と連絡をとる。
・こころの医療センター駒ヶ根回復者クラブ石楠花会のイベント開催通知が年３回発送されイベント参加者と状況確認を行っていたが、コロナで開催できず今年度は病院職員より手書きメッセージを送付。
・ながつき会（家族会）を運営し、外来、入院患者の家族が参加し、家族から話を聞くことで患者の状況を確認する。（コロナ流行期は休止）

医療法人杏野会各務原病院

（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症の治療拠点機関）

事業の基本情報

１．事業期間

令和４年４月～令和５年３月

２．支援対象者

アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル等依存症の方

３．専門職員の職種と主な業務

職種：医師、精神保健福祉士

業務：アルコール、薬物、ギャンブル等依存症患者を対象とし、他職種と連携しながら、再発予防に努め、対象者の生活上の問題の改善や必要と考えられる社会資源の情報提供、教育助言、実践的な指導を個別性に応じて行う。

４．連携している民間支援団体

・ダルク（岐阜、名古屋）

・デトックスセンターａｉ

支援の内容

５．民間支援団体との連携内容

・週に一度回復者を招いてミーティングの開催

・依存症治療グループ　アローズ（少人数制完全クローズドミーティング）
協力者は、保健師、衛星管理者、精神保健福祉士、サービス管理責任者、相談支援専門員でかつ依存症者。
ミーティング参加者は毎日のクローズドミーティング参加を基本とする。
＊クローズドミーティング：依存症者のみミーティング、支援者も依存症者に限る。

・施設体験、教育支援等

６．継続的な支援の手法や内容

・３６５日のミーティングの開催（入院・外来患者の送迎、自助グループへの参加）

・教育活動（事前教育ベクトル（個別））

・家族教室（事前教育ステップス　少年鑑別所で月２回）

・拘置所内での短時間教育　ベクトル

・イベントの参加（宿泊等）

・ユーチューブ等のネット教育・ライングループでの対応等

※初期１年はミーティングへの参加を継続していただくことで、依存行為を脱し、1年を目安として就労支援も行う。利用期間は原則2年。

聖明病院

（アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関）

事業の基本情報

１．事業期間
令和４年４月～令和５年３月

２．支援対象者
聖明病院受診後（退院後通院者含む）の依存症者及び家族。

３．専門職員の職種と主な業務
精神保健福祉士・公認心理師・院内自助グループ担当職員

・退院後依存症者並びに家族・県断酒会を招き、入院中の患者と病院職員で定例会の開催。職員は、企画・連絡調整・設営・運営を行う。1回/月

・上記定例会の拡大例会として年2回、各分野の講演者による特別講演と断酒継続者（１・３・５・10年）の表彰を実施。職員業務は同上。

・県内の静岡ダルクによる、聖明病院会議室において退院後依存症者・入院中の患者が参加する当事者ミーティング（ダルクメッセージ）の開催。職員は、連絡調整・設営・運営補助を行う。3回/月

・聖明病院退院後の依存症デイケア利用者に対し、静岡ダルクスタッフによる依存症回復プログラム（集団認知行動療法）の実施。
職員は、連絡調整・設営・運営補助を行う。1回/週

支援の内容

４．連携している民間支援団体
静岡県断酒会　・　静岡ダルク

５．民間支援団体との連携内容
・院内で県断酒会の各支部会員を招いて断酒定例会を開催
・院内でダルクメンバーを招いて当事者ミーティングを開催
・ダルクスタッフと共同して、回復プログラム（集団療法）の実施

６．継続的な支援の手法や内容
・県断酒会の各支部及び県内ダルクへの連絡調整。依存症者並びに家族の同意のもと、断酒会・ダルクへの紹介により、支援団体（自助グループ）に繋げる。
・当院退院後の依存症者で断酒継続者表彰のための連絡により現況確認。
・電話等で生活状況を確認。
・定期的にデイケア時の面接等で生活状況を確認。

医療法人社団進正会　服部病院
（アルコール健康障害、薬物依存症、ギャンブル等依存症の専門医療機関）

事業の基本情報

1．事業期間
令和４年４月～令和５年３月

2．支援対象者
アルコール依存症・薬物依存症・ギャンブル依存症の
患者及び家族（入院・外来）

3．専門職員の職種と主な業務
医師・看護師・精神保健福祉士・臨床心理士
クリニカルパスを柱に依存症の援助（治療）を行っている。
・集団精神療法（グループワーク）の運営（Dr,Psw,Cp）
・家族会・家族教室の実施（Dr,Ns,Psw）
・院内他職種カンファレンス
・入院時より患者担当制（Psw）
日常生活や外出泊の相談、家族との調整、自助Gの案内等を行っている。

4．連携している民間支援団体
断酒会、AA、GA、NA、ダルク

支援の内容

5．民間支援団体との連携内容
・服部病院断酒同窓会…当院の退院者を対象として年1回同窓会を開催。依存症に関する講演会や本人・家族の体験発表等を実施。
・断酒会員と話そう会…毎月第4土曜日10:30～開催。断酒会員から回復のプロセスを聞き、学ぶ機会とする。入院・外来患者、家族等誰でも参加可能。
・院内例会…アルコール依存症のミーティング。毎週金曜日19：00～21：00
支援対象者に回復者（自助Gメンバー）の体験談を聞く場面として開催。
入院・外来・自助Gメンバー等自由に参加可能。
・サクセス（院内呼称）…薬物依存症のミーティング。毎週金曜日19：00～20：00
入院・外来患者・NA・ダルクのメンバー等自由に参加可能。
・GA…GAが主催するギャンブルミーティングに当院で会場を提供。

6．継続的な支援の手法や内容
・院内依存症プログラム…入院中、デイケア通所中の患者にプログラムを実施。自助Gへの参加を促し、体験談を聞く機会や回復者のイメージを持ってもらえるよう支援。
・服部病院断酒同窓会…往復はがきで参加の有無と現状の確認を実施。
・総合病院での研修…近隣の総合病院でスタッフ向けの研修を実施。依存症患者の早期発見・介入、専門医療機関や自助Gに繋ぐことを目的とした啓発活動。
・その他…酒無し忘年会、自助グループ例会、記念大会などに当院の専門職も参加し、断酒継続の確認や回復と再発などの相談を実施。家族の集いに参加し、家族支援も実施。

医療法人成精会　刈谷病院

事業の基本情報

1．事業期間
令和４年4月～令和５年3月
（平成30年11月より継続して実施）

2．支援対象者
アルコール依存症の外来および入院患者の中で、説明書面を交付し、患者本人の同意が得られた者

3．支援の手法
SBIRTS（**S**creening： スクリーニング、**B**rief **I**ntervention：簡易介入、 **R**eferral to **T**reatment & **S**elf-help groups：専門治療と自助グループへの紹介）を用いた支援

4．専門職員の職種と主な役割

医師
・アルコール依存症の外来および入院患者に、依存症から回復するためには、民間支援団体（自助グループ）による継続的な支援が必要であることを説明し、電話により自助グループにつなぐSBIRTSを行う
・看護師と共に、患者の相談業務や事後調査を実施

精神保健福祉士
・医師、看護師と共に患者の相談業務を実施

看護師
・医師と共に患者の相談業務や事後調査を実施
・SBIRTSを行った患者のデータ管理
・民間支援団体を訪問し連携を図ると共に、支援対象者の状況確認を実施
・行政等関係機関との連絡調整

5．連携している民間支援団体
愛知県断酒連合会、AA愛知支部、三河ダルク

支援の内容

6．民間支援団体との連携内容
○対象者（場合によってはその家族）に対し直接断酒会員から断酒会の案内を行い、例会参加につなげる

＜手法＞
①診察場面で医師が断酒会の説明をし、同意が得られた患者に同意書を渡し、その旨をカルテに記載する
②外来看護師が直接断酒会員（県内に12名）に連絡を入れ、医師が患者の状況を説明する
③患者本人及び家族が電話で直接断酒会員と話をする
④電話終了後に医師または看護師が、断酒会員より状況を聞きカルテに記入する
⑤看護師は患者が希望する断酒会例会場の地域を確認し案内、例会予定表、院内で作成した例会場案内、各断酒会が作成した案内はがきを渡す
⑥再来診察時に定期的に事後調査を行ない、必要時は民間団体に連絡する
※アルコール リハビリテーション プログラム（以下,ARP)入院時は、退院直前に病棟で同内容のSBIRTSを行なう

○院内外で民間支援団体の支援員とミーティングを開催する
○民間支援団体が開催する家族教室や講演会等に講師として参加するなど、民間支援団体との協力・連携強化を図る

7．継続的な支援の手法や内容
○対象者の治療の継続状況・再飲酒の状況・自助グループの参加状況を確認し状況に応じ介入及びサポートを行う。必要に応じて自助グループ等の民間支援団体と連携し支援していく

＜手法＞
・対象者の状況（断酒会への参加状況や生活状況、困りごと等）については、対象者の受診時に直接、または電話によって、医師または看護師等が確認し、必要に応じて助言等を行う
・対象者に直接確認できないなど、状況によっては当院から断酒会へ直接確認する

国立病院機構榊原病院 （アルコール依存症･ギャンブル等依存症･薬物依存症　治療拠点機関）
三重県立こころの医療センター （アルコール依存症･ギャンブル等依存症　治療拠点機関）

事業の基本情報

１．事業期間
令和４年９月～令和５年３月

２．支援対象者
アルコール依存症、ギャンブル等依存症、薬物依存症の方
（入院・外来とも）

３．専門職員の職種と主な業務
職種：医師、看護師、作業療法士
業務：自助グループの連絡調査
依存症患者の面談、相談、援助
院内多職種でのカンファレンス実施
自助グループとの連携についての課題整理
自助グループとの繋がりの定期的な確認

４．連携している民間支援団体
三重断酒新生会、三重ダルク、AA

支援の内容

５．民間支援団体との連携内容
入院、外来患者において、自助グループへの紹介が適当と思われる患者について、医師の指示のもと、自助グループを紹介。
自助グループは、電話、病院への訪問等により、当該患者と面接や自助グループへの参加支援を行う。事業実施医療機関は、自助グループと綿密な連携を図りながら、協働して支援を行う。

６．継続的な支援の手法や内容
事業実施医療機関は、自助グループと綿密な連携をとり、自助グループ紹介患者が、継続して自助グループに参加し回復できるよう支援を行う。
また、自助グループへの参加が継続できなかった者について、外来受診時などに面接を行うなどして、本人の気持ちに寄り添った支援を行う。
事業実施医療機関は、自助グループへの参加が継続できなかった事由やその課題について、自助グループと協議を行うとともに、必要に応じ、治療拠点機関・専門医療機関連携会議の場などで協議を行う。

地域連携による依存症早期発見、早期対応、継続支援モデル事業実施自治体(R4年度)

NO	自治体名	実施機関
1	神奈川県	学校法人北里研究所　北里大学病院
2	京都府	京都府
3	大阪府	医療法人和気会　新生会病院
4	佐賀県	佐賀県精神保健福祉センター
5	沖縄県	沖縄リハビリテーションセンター病院
6	沖縄県	沖縄協同病院
7	横浜市	公立大学法人　横浜市立大学附属市民総合医療センター

学校法人北里研究所　北里大学病院

（アルコール依存症、薬物依存症、ギャンブル等依存症　治療拠点機関）

事業の基本情報

1．事業期間

令和４年４月～令和５年３月

2．支援対象者

アルコール依存症
薬物依存症
ギャンブル等依存症　｝外来の方

3．配置する職員の職種と主な業務

医師・・・診療（外来・病棟）
公認心理師・臨床心理士・・・・心理検査、心理面接、集団療法
作業療法士・看護師・・・集団療法
社会福祉士・・・生活支援・院内連携・多機関連携

4．早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

（北里大学病院）

・消化器内科との連携システムを構築し、飲酒に関連した問題が生じた者に対して、精神科や自助グループへの拒否感を示す段階の者に、消化器内科にて介入を開始し、できるようにしている。また、相談室や栄養部との関わりを続けることで、問題の軽減を動機づけるとともに、状況に応じて、精神科や自助グループへの関わりをもつことができる機会を提供する。
・当院職員が自助グループ・回復施設・民間支援団体を直接紹介。
・当院職員が自助グループの参加者・回復施設・民間支援団体に連絡し、引き合わせる。当院職員が院内で開催されている自助グループに同伴。

（相模原DARC ）

・相模原DARCに依頼し、回復施設・自助グループに案内していただく。

（AA・GA・NA）

・院内にAAを誘致しており、そこで自然にメンバーと当院患者の交流があり、地域のAAに参加するケースが多い。院内プログラムに配置されている当事者講師が地域のGA、NAにおいて中心的な立場にいるため、必要に応じて案内している。

（女性サポートセンターインダー）

・当院の医師が運営・活動に対して技術支援をおこなっている。必要に応じて医師が患者を直接紹介する。

5．合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

治療機関：教育入院の依頼、相模原DARC ：家族会、
精神保健福祉センター：家族教室

支援の内容

6．早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

・院内身体科向け及び地域に、依存症についてのセミナーの開催。
・依存症疑い患者について、当院の内科・外科等身体科や救急救命・災害医療センターから精神科に相談をもらい早期発見に努める。
・ギャンブル依存症及び薬物依存症に関しては、定期的に行政へ専門医の派遣を行っている。

○具体的な連携手法・内容

・精神科と、消化器内科の医師・看護師、相談室、栄養部で月に１回以上、連携会議を設け、介入方法・連携方法について議論をする。
・その中で、消化器内科・栄養部での依存症に対する介入を開始し、それについて精神科がスーパーバイズする。
・生活支援が必要な者や、精神的な問題がある者に関しては、相談室において社会福祉士が相談を受け、そのなかで、精神科や自助グループへの参加動機を高める。このことで、精神科・自助グループへの参加ができない患者を排除しない介入を実施している。
・当院他科の外来・入院患者に対して連携を強化する（リエゾン介入等を行う）。
・各依存症について普及啓発のためのリーフレットを作成し、患者へ配布する。
・院内の他科・他職種、県民、患者家族、近隣医療機関スタッフ、行政機関職員等への　研修会・勉強会を開催し啓発並びに広報活動に努める。
・専門医が、行政の市民相談にて依存症を疑う者を発見した場合、受診や自助グループへの参加の動機づけを行う。

京都府

事業の基本情報

1．事業期間

令和４年４月～令和５年３月

2．支援対象者

アルコール依存症の当事者や家族

3．配置する職員の職種と主な業務

精神保健福祉士・事業の企画・運営

4．早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

バザールカフェ：事業の企画・運営
京都民医連中央病院：依存症患者の早期発見
京都府断酒会：「SBIRTS」の組織化と広報

5．合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

安東医院：依存症専門医療機関
いわくら病院：依存症専門医療機関

支援の内容

6．早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

〔アルコール依存症〕
・依存症専門医療機関医師の内科医師などへのコンサルテーション
・「SBIRTS」の普及のための啓発活動の企画・運営

○具体的な連携手法・内容

〔アルコール依存症〕
・依存症専門医療機関の医師等が内科医師等や患者に直接コンサルテーションが行えるように派遣調整(医療機関(派遣元・派遣先)のマッチング、日程調整(月2回程度))、日報管理、謝金支払いを行う。
・依存症を早期に発見・介入し医療機関・社会復帰へつなげる手順「SBIRTS」を京都で広め定着させていくために、セミナー等実施の際、広報に努める。

医療法人和気会　新生会病院
（アルコール健康障がい専門医療機関）

事業の基本情報

1．事業期間
令和４年４月～令和５年３月

2．支援対象者
アルコール依存症の疑いがある人（府内の２次医療圏内、１か所で実施）

3．配置する職員の職種と主な業務
○　医師（アルコール健康障がい専門医）、看護師、精神保健福祉士　等
・医療機関へのスクリーニング・簡易介入マニュアルの普及（研修会の開催）
・支援職員（回復した当事者や家族等）の養成・登録・派遣
・支援職員の活動への支援
・関係者会議の開催、本事業の課題の検討

○　回復した当事者や家族等（支援職員）
・支援対象者を、内科等医療機関、市町村や保健所などの相談窓口、専門医療機関等から自助グループへつなぐ支援を行う。

4．早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関
市役所各種相談窓口等、保健所、専門医療機関、自助グループ（断酒会・AA）等

5．合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関
内科医療機関（スクリーニング協力機関）、市役所各種相談窓口等

支援の内容

6．早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容
○早期発見の方法・内容
・大阪府作成の簡易介入ツール等を、委託専門医療機関が研修等を通じて内科等医療機関等に提供する。
・内科等医療機関等において、簡易介入ツールを活用して、依存症やその可能性のある対象者をスクリーニングしてもらう。

○具体的な連携手法・内容
・内科等医療機関等が、スクリーニングテストの結果、依存症が疑われる人に対して、本事業について案内を行い、希望者を保健所へ紹介する。
・保健所は、支援職員の派遣を委託専門医療機関へ依頼し、支援職員が、自助グループ等に同行し、支援を行う。
・支援職員または委託専門医療機関職員が、定期的に電話等で生活の状況を確認する。

佐賀県精神保健福祉センター（佐賀県依存症相談拠点機関）

事業の基本情報

１．事業期間

令和４年4月～令和５年3月
（令和2年10月より継続して実施）

２．支援対象者

依存症問題を抱える一般県民やその家族、支援者等

３．配置する職員の職種と主な業務

・依存症担当職員（保健師）
・依存症相談員（保健師）

【業務】
・研修会の開催、関係機関との連携、個別支援等
・依存症全般に対する電話・来所相談

４．早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

県内内科医療機関、県・市町の健康部門、県内保健福祉事務所、自助グループ、依存症回復施設

５．合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

（個別支援において）
市町保健師・生活保護課、県保健福祉事務所、依存症渠底医療機関、内科医療機関など

支援の内容

６．早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

・研修会などで人材育成を行い、一般科病院から当センターや専門医療機関へ紹介してもらう
・来所相談時にスクリーニングテストの用紙を配布し、相談者に記入してもらう
・電話相談時に依存症担当もしくは、依存症相談員が依存症の進行度及び、本人が抱える問題についてアセスメントを行う

○具体的な連携手法・内容

・関係機関（依存症専門医療機関、肝疾患センター、検診機関等）に対し、研修案内、当センターの取り組みについて説明を行う
・依存症治療拠点医療機関、保護観察所に対し、当センターの取り組みについて説明を行う。
・昨年度当センターで開催した研修受講者に対し、受講した学びを支援に活かすことが出来ているか、支援の中で工夫していること、困っていること、今後どのような支援ができそうか等について、インタビュー調査を行う。
・電話、来所の相談時にアセスメントを行い、依存症が疑われる人に対して冊子等を用いて自助グループや専門医療機関を紹介する。
・個別支援の同意を得た人には定期的に電話連絡や面談を行い、必要に応じて一緒に自助グループに参加、医療機関受診同伴を行う。

沖縄リハビリテーションセンター病院

事業の基本情報

１．事業期間

令和４年４月～令和５年3月

２．支援対象者

アルコール依存症

３．配置する職員の職種と主な業務

精神科医師

（主な業務）

・総合病院へ月に２日出張し、アルコールリエゾン診療を行う

・主治医等からコンサルトのあった方や自ら受診された方に対し診療として ＳＢＩＲＴＳを行う

・必要に応じて電話や映像を用いた通話により、依存症者と自助グループ会員が会話できる機会を作り、適切な治療や支援に結び付ける。

４．早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

沖縄県立中部病院・中頭病院・中部徳洲会病院

５．合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

琉球病院、沖縄県立中部病院、中部徳州会病院、中頭病院

支援の内容

６．早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

アルコール依存症が疑われた総合病院外来患者、および入院患者に対して、面接してスクリーニングテスト(AUDIT)を行う。

○具体的な連携手法・内容

スクリーニングテストの結果、リスクの高い飲酒習慣を有する方には簡易介入を行い、依存症が疑われる方には専門医療機関を紹介する。総合病院で面接したスタッフが専門医療機関で引き続き担当することができることや、すぐに受診調整を行うことができるメリットを生かし、専門医療機関での治療に結び付ける。

沖縄協同病院（総合病院）

事業の基本情報

1．事業期間
令和４年４月～令和５年３月

2．支援対象者
総合病院の身体科医師がアルコール依存症を疑った入院患者・救急部頻回受診患者

3．配置する職員の職種と主な業務
＜職種＞医師(精神保健指定医・精神科リエゾン専門医)

＜主な業務＞
・主治医等からコンサルトされた入院患者・救急部頻回受診患者に対して、診療としてSBIRTSを行う。
・前期研修医むけの講義や院内マニュアル整備などの啓発活動を行い、「アルコール問題を抱える患者さんを拾う眼と構え」の醸成を行う。
・必要に応じて電話や映像を用いた通話により、依存症者と自助グループ会員が会話できる機会を作り、適切な支援に結び付ける。

4．早期発見から自助グループ等社会資源へのつなぎに至るまでの連携機関

・ALPSセンター・琉球ガイア（通所ARP(最大週6日)の実施　家族相談の実施）
・おきなわASK（webによる自助ミーティング実施　家族相談の実施）
・県立精神保健福祉センター（通所ARP(週1日)の実施）
・専門医療機関（入院ARP・通院ARPの実施　家族教室・家族相談の実施）
　糸満晴明病院
　国立病院機構琉球病院
　南山病院
　沖縄リハビリテーションセンター病院

5．合併疾患や種々の問題対応のため連携した治療機関や支援機関

・沖縄協同病院（二次救急告示病院(院内連携)）
・那覇パーソナル・サポート・センター（ホームレス患者・無保険患者などの生活再建支援）
・那覇市保護課（生活保護開始および適正な実施による生活再建支援）

支援の内容

6．早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容
アルコール依存症が疑われた総合病院入院患者・救急部頻回受診患者に対して、面接してスクリーニングテスト(AUDIT)を行う。

○具体的な連携手法・内容
患者のAUDIT得点プロフィールおよび退院後の生活環境に応じて、ハイリスク飲酒者にはBIを実施し、依存症者には飲酒行動の是正を主眼とした専門治療への導入ないし情報提供を行う。患者が専門治療を希望する際は、治療の継続性を重視して減酒希望の患者もフォローする。

横浜市立大学附属　市民総合医療センター

事業の基本情報

1．事業期間

令和４年４月～令和５年３月

2．支援対象者

院内でアルコール依存症が疑われる通院・入院患者

3．配置する職員の職種と主な業務

職種：精神保健福祉士
主な業務：
・当院に通院あるいは入院となった患者のうち、原疾患にアルコールの影響があると思われる方についての、情報共有・収集、ニーズ把握、直接相談
・院内の精神医療センターで行われている減酒外来へのつなぎ
・減酒外来での初期スクリーニング・アセスメントや、依存症治療の導入・実施の支援 (精神科医師・専門看護師らと協働)
・必要と思われる患者家族に対する、自助グループや回復施設などの紹介や、各種制度案内等
・減酒外来につながった患者の受診後の治療状況の把握や、相談の継続、各団体・医療機関等への紹介後の、電話・面談等によるサポートの実施

4．連携している主な関係機関・支援団体等

横浜市こころの健康相談センター　　各区福祉保健センター
神奈川病院　　大石クリニック
NPO法人　横浜マック　　NPO法人　市民の会 寿アルク
NPO法人　あんだんて 女性サポートセンター Indah(インダー)

支援の内容

5．早期発見の方法・内容、具体的な連携手法・内容

○早期発見の方法・内容

・精神医療センター以外の他診療科に向けて、減酒外来に関する周知や広報を行う。
・減酒外来につながった方の初期スクリーニング及びアセスメントを専門看護師らと協働して実施する。
・入退院支援部門で行われる入院時スクリーニングや退院支援カンファレンスの際に、アルコールの問題が背景にありそうな患者について情報共有を行い、必要に応じ、患者へのコンタクトや、診療科医師への減酒外来併診に関する情報提供を行う。

○具体的な連携手法・内容

・横浜市主催の連携会議への参加や、関係機関に個別に問合せを行い、支援情報の収集・一覧化・情報共有を行う。
・減酒外来での面接相談等を踏まえ、必要と思われる患者や家族について、上記関係機関のほか、自助グループや家族会等の紹介を行う。